

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 廃止措置研究・人材育成等強化プログラム
 中間評価総合所見

評価の概略					
研究開発課題名:遠隔操作技術及び核種分析技術を基盤とする俯瞰的廃止措置人材育成 事業代表者(研究機関名):岡本 孝司(東京大学) 再委託先研究責任者(研究機関名):高橋 隆行(福島大学) 再委託先研究責任者(研究機関名):横小路 泰義(神戸大学) 研究期間及び研究経費:平成26年度～平成30年度(5年計画)					
項目	要 約				
1. 事業の概要	東京電力福島第一原子力発電所の廃止措置は、非常に特殊な環境での作業となるため、多岐にわたる課題を深く理解し、かつ、専門領域にも通じた人材が必要で、廃止措置全体を総合的に俯瞰してリスクを低減できる人材が必須となる。本人材育成事業においては、遠隔操作技術と核種分析技術に関する専門的な研究開発を行い、これら技術の有機的な連携によるシステム化を図るとともに、キャリアパスを考慮した、総合工学としての廃止措置を俯瞰的に理解できる人材を養成することを目的とする。				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">A</td> <td> 遠隔操作技術と核種分析技術に関する基盤研究開発において独自性のある研究が行われており、計画通りの成果が得られている。廃止措置においては、これらの技術の確立が不可欠であり今後さらに実用化に向けた取り組みを期待する。人材育成事業では、仮説指向計画法に基づいたブレインストーミング等俯瞰的な視野養成の観点からの特色のあるプログラムが実施されており、キャリアパス、若手の育成等で成果が期待される。 </td> </tr> <tr> <td></td> <td> S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。 B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。 D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。 </td> </tr> </table>	A	遠隔操作技術と核種分析技術に関する基盤研究開発において独自性のある研究が行われており、計画通りの成果が得られている。廃止措置においては、これらの技術の確立が不可欠であり今後さらに実用化に向けた取り組みを期待する。人材育成事業では、仮説指向計画法に基づいたブレインストーミング等俯瞰的な視野養成の観点からの特色のあるプログラムが実施されており、キャリアパス、若手の育成等で成果が期待される。		S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。 B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。 D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。
A	遠隔操作技術と核種分析技術に関する基盤研究開発において独自性のある研究が行われており、計画通りの成果が得られている。廃止措置においては、これらの技術の確立が不可欠であり今後さらに実用化に向けた取り組みを期待する。人材育成事業では、仮説指向計画法に基づいたブレインストーミング等俯瞰的な視野養成の観点からの特色のあるプログラムが実施されており、キャリアパス、若手の育成等で成果が期待される。				
	S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。 B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。 D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。				